

ぷかぷか おかしんぶん

寒さが身にしみますね。
お元気ですか？
ぷかぷかおかしんぶんを
お届けします。

2025年

2月号

No.174

NPO法人ぷかぷか

NPO法人ぷかぷか 検索



ベーカリーぷかぷか	045-921-0506	横浜市緑区霧が丘3-25-2-203
おひさまの台所	045-923-0277	霧が丘3-25-2-204
アート屋わんど	045-923-0282	霧が丘3-25-2-205
おかし工房にじいろ	080-4634-2719	霧が丘5-26-2-201

1. うたの練習

本番まであと1週間!!
歌詞を見ないで歌えるかな?



2. 衣装パレード

本番の衣装を着用し、イメージ通りに確認したり、サイズの調整などを着るとみんなの気持ちも高まります!

レポート 演劇ワークショップ その6

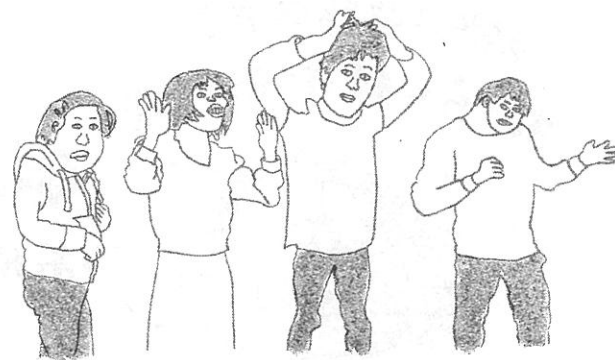
昨年8月から月1回続けてきた演劇ワークショップ。今回の演劇の題材は、ぶかぶかのヨッシー警察学校と名付けられた建物に、いろんなだけでなくアスレチックや観覧車、お店や海まか不思議な世界を私たちは「ワンダーランド」を切り取り、お芝居を作りました。今月は、1月18日(土)に行なったワークシ

ョップ。1月26日に本番を迎えました。が作った立体作品です。人物、動物、妖怪などが登場し、警察など様々な施設が混在しています。この「シンド」と呼び、作品の中からいくつかショップの様子をご紹介します。



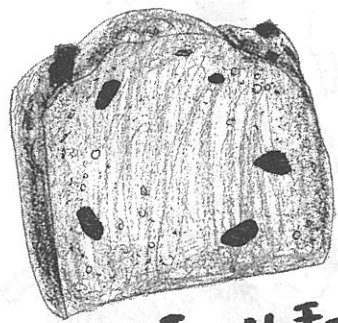
3. 演劇を通してやってみよう!

今まで作ってきたお芝居を1つの台本にまとめ、最初から最後までゆっくり通してみました。通してやるのは初めてで、台本どおりに行けなかつたり、一回一回止めながら、確認しながらで時間がかかりました。でも台本どおりでなくてもOKなのが、ぶかぶかの演劇ワークショップです! 外の世界からワンダーランドにやって来たビジネスマンの物語。ワンダーランドのお魚たち、迷子のおじさん一家、だるま一座と出会い、ビジネスマンは泣きぐた、神社のゆうれい、妖怪電車、緑のおじさん一家、だるま一座と出会い、ビジネスマンはどうなるのでしょうか?

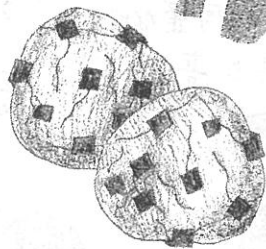


演劇ワークショップのレポートは今回で最後です。このぶかぶかしんぶんがたくさん出回る頃には、本番の舞台は終わっていますが、出演したぶかぶかさんに感想を聞いてみてください。きっと良い顔で語ってくれることでしょう!

おかし工房 にじいろ
みんな大好き♡
チョコ×チョコのおやつ



クーパルチュールチョコ
×
濃厚チョコパウダー
250円



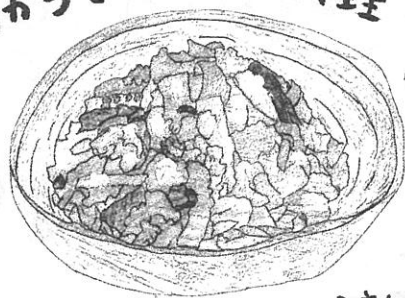
チョコチップ
×
チョコクッキー
5枚入 200円

2月の おすすめ

♡ 2/8と2/22は土曜営業日です。
♡ 翌月の土曜営業日は3/8です。



おひさまの台所
おからを使ったお料理



う はな
・卵の花 (おからの煮物)
・おからサラダ

おからには カリウム や カルシウム、鉄、食物繊維が
たっぷり!! 身体の中から健康になりましょー!!

ベーカーリー 3:30~5:30



ハートチョコ

～私のきもち～

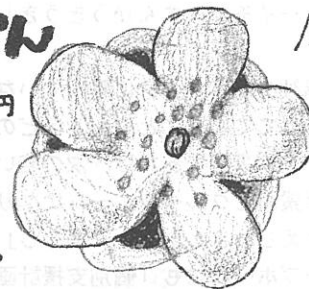
230円

ココア生地に
自家製チョコカスタードクリーム
を塗り込み 焼き上げました。
トッピングには アーモンドを。

桜あんぱん

200円

桜あんをたっぷり
包み お花の形に
しました。



// けしの実と
桜塩漬け
をトッピング
\\

イベントの
お知らせ

あおばカノン
2025

3/5(水)・6(木)

青葉台東急スクエア
フリアホールにて

アートと音楽のイベントです。
作品展示や マルシェに参加
する予定です。お楽しみに!

アート屋わんど

2月のワークショップ

墨絵を描いてみよう!
おみえ

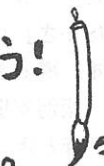
2/22(土) 10:30~12:00

アート屋わんどにて

参加費 200円

お申し込み 045-923-0282

wando@pukapuka.or.jp



おむすび味噌というおいしいお味噌があります。かつては『おむすび長屋』というところで作っていました。（今は社会福祉法人になっています）

おむすび長屋は、山間の廃屋を借りて障がいのある人たちといっしょに味噌を造りながら暮らしを立てていました。その話が昔私が養護学校の教員だった頃新聞に載り、「あ、なんだかおもしろそう」って、さっそくおむすび長屋を訪ねました。

信州の小諸からかなり山奥に入ったところにある茅葺きの昔ながらの家で、なんだかホッとする雰囲気でした。コーイチローさんという障がいのあるおもしろいおじさんがいて、「ボーナスでたら、スナック行って、ジュース飲むんだよ」
とうれしそうに語ってくれたことが未だに印象に残っています。ああ、こんな幸せがあるんだ、ってしみじみ思いましたね。

おんぼろの廃屋ではありましたが、障がいのある人と一緒に暮らす見るからにあたたかな「暮らし」がそこにはありました。年に一度「ボーナス出たら、スナック行って、ジュース飲むんだよ」コーイチローさんがうきうきしながら語るような、ささやかな楽しみもありました。

今のように福祉の制度も十分に整っていない時代でしたから、障がいのある人たちといっしょに暮らしを立てていくことは、よほどの「志」がないとできないことでした。強い「志」がないとできない事業であれば、次の若い世代に引き継げないと、その後、社会福祉法人になり、福祉事業所とグループホームになりました。

建物は建て替えられましたが、「暮らし」のあたたかさがグループホームにはありました。そのグループホームにも「個別支援計画」なる指導体制の確立が求められ、

《地域で働き、地域で暮らす「場」が、次第に「トレーニング施設」へと様変わりしてゆくように思われます。》

と、「おむすび通信」におむすび長屋の主・田中さんが嘆いていました。「個別支援計画」の本質を突いています。

《人のにおいのぶんぶんする連中に、色々面倒くさいことが起こっても、「ったくしょうがねえなあ」といつつ、寄り添う》田中さんたちの姿勢が好きでした。そういう姿勢だったからこそ、そこでの「暮らし」「仕事」には「あたたかさ」がありました。

そんなところへ「個別支援計画」が入り込んだのです。事業をやっていく上で福祉サービスの報酬をもらう以上、やむを得ないこととはいえ、「個別支援計画」で描かれる彼らとの関係は、彼らに寄り添う、という人間くさい姿勢からはほど遠い関係になっています。

彼らに寄り添いながら、丁寧に暮らしと仕事を作ってきた田中さんたちにとっては、全く理解しがたい制度だろうと思います。福祉の世界がどういう方向を向いているかがよくわかります。

それでも尚、彼らとのあたたかなおつきあいこそ大事にしたい私は思うのです。いっしょに生きていく、というのは、「ったくしょうがねえなあ」といつつ、今日もまた寄り添ってしまうような、そんなおつきあいであり、生き方ですから。

高崎 明